

令和 3 年度 学校教育自己診断の考察

大阪府立泉鳥取高等学校

1 生徒の部

(1) 評価の高かった項目

肯定的意見が比較的多いのは、「5 評価の仕方や基準について、事前に知らされている (83.0)」「16 学校は、進路についての情報を知らせてくれる (82.5)」「23 授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している (86.3)」「21 人権について学ぶ機会がある (82.7)」である。

(2) 評価の低かった項目

肯定的意見が少ないのは、「2 この学校にはほかの学校にない特色がある (47.6)」である。「26 他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある (33.0)」地域交流や他の学校との交流を特色としてきたがコロナ禍の影響により昨年・一昨年と生徒会を中心とした活動がほとんどできなき状態であった。そのことが原因であろうとみられる。

(3) 昨年度から変化した項目

昨年度と比較して、全体的に肯定する回答が上昇したことである。昨年、「4 学習の評価はテストだけでなく、生徒の努力や需要に取り組む態度等を含めて行われている (72.6)」が最もポイントの高い肯定的意見であったが今年度は80%以上である項目が6項目を占めている。大きな変動のあった項目について考察すると全体的にコロナ禍の影響か、肯定的意見が向上したのは、「20 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある (66.1→70.6→80.0)」がある。新型コロナウイルス感染症をきっかけに、改めて命に向き合う取組みが増えた結果である。

2 保護者の部

(1) 評価の高かった項目

80%以上の肯定的意見は、「16 学校に友達がいる (90.4)」「8 保護者の相談に適切に応じてくれる (88.1)」「7 子どもの評価が適切公平である (87.3)」「12 進路や職業の適

切な指導を行っている (87.2)」「14 学校行事は積極的に参加できるように工夫されている (85.2)」を含む12項目となっている、昨年は80ポイントを上回る項目がなかった。

(2) 評価の低かった項目

肯定的意見が5割を切る項目は3項目あり、「参観や行事に参加したことがある (20.2)」「23 PTA活動に参加することがある (10.5)」「5 子供どもは授業はわかりやすく楽しいと言っている (49.6)」であった。

(3) 昨年度から変化した項目

昨年度と比較して、生徒結果と同様に全体的に肯定する回答が上昇したことである。80ポイント以上の項目は12項目あり昨年度を大きく上回る結果となった。「17 人権を尊重の意識を育てている (53→60.3→79.6)」「11 学校の生活指導の方針に共感できる (47→55.0→67.6)」「25 学校は、ホームページやPTA新聞、メール配信などで教育情報の提供に努力している (61→70.2)」いずれも、コロナ禍の中で家庭と学校が密接に連携をとった成果であるとみている。

しかしながら、「5 子供どもは授業はわかりやすく楽しいと言っている (55.4→49.6)」とポイントを落としている項目もあり、今後の課題である。

3 教職員の部

教職員については、評価の高かった項目および低かった項目については省略し、昨年度との比較を中心に考察する。

(1) 評価が向上した項目

教職員で肯定的評価が5ポイント以上向上したのは、

- 5 学校全体として、ICTを使って授業を展開している (72→85.2)
- 6 年次からキャリア教育の目標を設定し実践している (54→63.3)
- 11 職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として、気軽に話し合えるようにしている (44→61.2)
- 27 授業において、生徒が理解できている手ごたえがある (66→73.5)
- 36 学校経営計画に照らして目標を設定し、教育活動を行っている (66→79.6)
- 37 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている (68→77.6) という項目であった。平成31年度には普通教室の電子黒板が導入が完成、令和2年度、同窓会・PTAによってタブレット型パソコンの寄付でハード面が

充実、さらにコロナ禍による臨時休業に伴うウェブ授業の早期構築で ICT 機器の活用が向上した。また、国全体で「キャリア・パスポート」が導入されたことにより、キャリア教育の計画が「探究の時間」を中心に位置づけられてきている状況を示している。

(2) 評価が低下した項目

評価が5ポイント以上低下した項目は、いずれもコロナ禍による行事や部活動にかかわる内容となった。

7 進路についての情報をよく知らせている (82→69.4)

8 生徒の進路や生き方について考える機会を設けている (88→79.6)

これについては、年度当初の臨時休業や行事の中止や差し替えで、1年生2年生で行っていた進路の体験的行事が実施できていないことから数字の低下を招いている。

18 生徒が楽しくなるように文化祭を工夫している (94→85.7)

20 部活動が活発になるように取り組んでいる。(60→49)

この項目も、行事を最小化する中で、文化祭も感染対策を万全に行い、最小限の取り組みとなったことが数字の低下を招いた。また、部活動も4月から大きく制限される中、活性化への取り組みが行えなかった。

25 教育相談体制が整備されており、生徒は担任外の教職員とも相談することができる。(92→81.6)

コロナ禍で不安定要因を抱える生徒が増加し、多くの教職員が教育相談体制に注目、その中SCの時間数等の容量が小さいことが認識された結果と考えられる。